

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	地理Ⅱ (0212)	
科目基礎情報							
科目番号	1E04			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	産業システム工学科電気情報工学コース			対象学年	1		
開設期	後期			週時間数	1		
教科書/教材	地理B/東京書籍、新高等地図/東京書籍、GCSE Geography AQA Student Book						
担当教員	河村 信治						
到達目標							
自然環境と人間の生活についての地理的見方、考え方が理解できる。 環境、国際社会など地理的な課題について自分自身との関わりを自覚し、広い視点を持ち、論理的に考えることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
		多文化共生の考え方を理解し、積極的な行動ができる		民族文化の多様性と、共生の考え方が理解できる		異文化に対して、排他的な見方をする	
		地域の課題と世界の繋がりを理解し、積極的に発言や活動ができる		地域の課題と世界の繋がりを理解できる		地域の課題と世界の繋がりを理解できない	
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー DP1 地域志向 ◎							
教育方法等							
概要		【開講学期】冬学期週2時間 世界の自然的環境と人間社会との関係、地域内あるいは地域間のさまざまな現象の構造や関係を理解する。 それは自分自身と、地域、国際社会、地球環境とのつながりを考えることでもある。 網羅的な知識より、諸事象の構造や関係性の理解を重視し、また現代の環境問題や国際化・情報化社会に主体的に向き合っていくための原則や基本的考え方を養うことを目標とする。					
授業の進め方・方法		冬学期には「地域学」と「異文化理解と共生」を2大テーマとして、地域の持続可能性についての課題とグローバル・イシュー（地球的課題）について考えていく。いくつかのテーマについて英語のテキストブック（GCSE Geography）を使用して授業を行う。					
注意点		冬学期は自ら調べ考える授業であり、主体的な意思表現とコミュニケーションが求められる。学習内容の復習とともに、学習のプロセスとそこから気づいたことを各自よくふりかえり整理しておくことが必要。					
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	文化と文明(1)			様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	
		2週	文化と文明(2)			異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	
		3週	文化・民族をめぐる問題(1)				
		4週	文化・民族をめぐる問題(2)				
		5週	紛争の解決に向けて(1)				
		6週	紛争の解決に向けて(2)				
		7週	多文化共生社会とは(1)			民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	
		8週	多文化共生社会とは(2)			それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	
	4thQ	9週	人口問題と地方創生				
		10週	災害と復興				
		11週	北・東北地域の可能性と課題(1)				
		12週	北・東北地域の可能性と課題(2)				
		13週	SDGs（持続可能な開発目標）(1)				
		14週	SDGs（持続可能な開発目標）(2)				
		15週	到達度試験				
		16週	ふりかえりとまとめ				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。		3	
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。		3	後7
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。		3	後10,後13,後14
				それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。		3	後7
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。		3	後1

				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	後2	
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3	後8	
評価割合							
	到達度試験	その他の課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0